



平成24年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年1月12日
上場取引所 東

上場会社名 ディップ株式会社

コード番号 2379 URL <http://www.dip-net.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 兼 CEO (氏名) 富田 英揮

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営管理本部長 (氏名) 大谷 栄一 (TEL) 03(5114)1177

四半期報告書提出予定日 平成24年1月13日

配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有・無

四半期決算説明会開催の有無 : 有・無 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年2月期第3四半期の業績 (平成23年3月1日~平成23年11月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年2月期第3四半期	8,362	22.5	347	-	317	-	173	-
23年2月期第3四半期	6,825	13.1	△177	-	△210	-	△197	-

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
24年2月期第3四半期	1,520	34	1,520	28
23年2月期第3四半期	△1,732	82	-	-

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円		百万円		%		円	銭
24年2月期第3四半期	6,526		3,406		52.2		29,834	55
23年2月期	6,247		3,324		53.2		29,114	21

(参考) 自己資本 24年2月期第3四半期 3,406百万円 23年2月期 3,324百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
23年2月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年2月期	-	0.00	-	800.00	800.00
24年2月期(予想)	-	0.00	-	800.00	800.00

(注) 当四半期における配当予想の修正の有無 : 有・無

3. 平成24年2月期の業績予想 (平成23年3月1日~平成24年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	11,500	20.7	600	184.7	500	197.9	300	-	2,627	22

(注) 当四半期における業績予想の修正の有無 : 有・無

4. その他（詳細は、【添付資料】3ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有・無

(注) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 有・無② ①以外の変更 : 有・無

(注) 「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年2月期3Q	123,620株	23年2月期	123,620株
24年2月期3Q	9,431株	23年2月期	9,431株
24年2月期3Q	114,189株	23年2月期3Q	114,182株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「(3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(第3四半期累計期間)	5
(第3四半期会計期間)	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国の経済情勢は、東日本大震災の影響による急激な落ち込みから、回復の兆しを見せておりましたが、欧州に端を発した財政不安に伴う世界的な景気の減速や急激な円高の進行など、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

国内の雇用情勢につきましては、完全失業率、有効求人倍率ともに、大幅な改善は見られないものの、緩やかながら回復の兆しが見えております。

このような環境のなか、当社はバイトルドットコム、はたらこねっとにおいて、求人広告以外のサービスへの取り組みを開始し、ユーザー・クライアントへ新しい価値を提供してまいりました。また、主力事業のバイトルドットコムにおいて、大規模なリニューアルを実施し、販売強化に取り組むとともに、はたらこねっと、ナースではたらこにおいて、スマートフォン最適化サイトを実装する等、利便性の向上にも努めてまいりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の売上高は83億62百万円（前年同四半期比22.5%増）となりました。

営業利益及び経常利益につきましては、代理店・地方提携会社の売上拡大に伴う代理店手数料・販売促進費等が増加したものの、費用の効果的使用に努めた結果、営業利益は3億47百万円（前年同四半期は営業損失1億77百万円）、経常利益は3億17百万円（前年同四半期は経常損失2億10百万円）となりました。四半期純利益は1億73百万円（前年同四半期は四半期純損失1億97百万円）となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりであります。

①バイトルドットコム

バイトルドットコムにおきましては、地図機能拡充によるサイトリニューアルにより、ユーザーの利便性の向上に努めてまいりました。さらに、平成23年4月にサービスを導入したアルバイトスタッフのシフト管理ツール「バイトルシフト」の機能を大幅に改良したほか、9月には急速な普及が進むソーシャルネットワークサービス（以下、「SNS」という。）において、SNSを活用したアルバイトの採用サービス「バイトルソーシャル」を開始し、求人広告以外の新たなサービスの提供に積極的に取り組んでまいりました。また、代理店・地方提携会社の売上も順調に推移いたしました。

これにより、当セグメントにおける売上高は62億69百万円、セグメント利益は10億77百万円となりました。

②はたらこねっと

はたらこねっとにおきましては、スマートフォン端末の普及に対応し、Android™、iPhoneアプリを開発・提供することにより、新たなユーザーの獲得及び利便性の向上に努めてまいりました。また、派遣求人情報以外の新たなサービスとして、派遣会社と求職者が直接サイト上でやりとりできる「はたらこアプローチ」の提供を開始し、今後の業績拡大への施策にも取り組んでまいりました。

これにより、当セグメントにおける売上高は8億35百万円、セグメント利益は2億97百万円となりました。

③ナースではたらこ

ナースではたらこにおきましては、看護師と親和性の高い医療系ドラマへの番組提供や、看護師向け専門誌への広告出稿を実施し、認知度の向上を図るとともに、看護師向け転職成功マニュアルを作成し、看護師の集客強化及び満足度向上に努めてまいりました。さらに、当社サービスを通して採用が決定された看護師の方へ、医療機関からの成功報酬の一部を「キャリアアップ支援金」として支給することで登録者の拡大に努めてまいりました。

上記施策に伴う登録者数の増加に対応し、キャリアアドバイザー体制を強化することにより決定者数の増加を図り、業績拡大に取り組んでまいりました。

これにより、当セグメントにおける売上高は10億12百万円、セグメント損失は2億43百万円となりました。

平成23年12月に発表されたオリコン顧客満足度（CS）ランキングにて、医療系人材紹介部門No.1を獲得し外部機関からの高い評価を得る結果となりました。

④ジョブエンジン

ジョブエンジンにおきましては、経営資源をアルバイト・パート領域及び看護師紹介事業へ振り向けることに伴い最小限のリソースで効率的に事業を運営してまいりました。

これにより、当セグメントにおける売上高は2億29百万円、セグメント利益は37百万円となりました。

⑤その他

当セグメントにおきましては、バイトルドットコムの飲食店顧客向けサービスによる売上高は15百万円、セグメント利益は15百万円となりました。

（注）「Android」はGoogle Inc.の商標または登録商標です。また、「iPhone」はApple Inc.の商標です。

(2) 財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末における資産は、前事業年度末と比較し2億78百万円増加し、65億26百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加3億41百万円、売掛金の減少1億69百万円、ソフトウェアの増加2億1百万円によるものであります。

負債につきましては、前事業年度末と比較し1億96百万円増加し、31億19百万円となりました。主な要因は、買掛金の増加62百万円、短期借入金の増加10億円、前受収益の減少5億2百万円及び長期借入金の減少4億49百万円によるものであります。

純資産につきましては、前事業年度末と比較し82百万円増加し、34億6百万円となりました。これは利益剰余金の増加82百万円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は前事業年度末と比較し3億41百万円増加し、20億9百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は4億45百万円（前年同四半期は1億52百万円の使用）となりました。これは主に税引前四半期純利益3億14百万円、減価償却費3億33百万円、売上債権の減少2億12百万円、仕入債務の増加62百万円が前受収益の減少5億2百万円を上回ったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は5億65百万円（前年同四半期比2億5百万円の増加）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出36百万円、無形固定資産の取得による支出5億4百万円、敷金及び保証金の差入による支出25百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、得られた資金は4億60百万円（前年同四半期は4億22百万円の使用）となりました。これは短期借入金の純増加額10億円が長期借入金の返済による支出4億49百万円、配当金の支払額90百万円を上回ったことによるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成24年2月期通期の業績予想数値につきましては、平成24年1月12日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」にて修正いたしました。これは、平成24年2月期通期の業績予想の見直しを行った結果、売上高において、前回公表した平成24年2月期通期の業績予想数値を下回る見通しとなったためであります。当該業績予想に関する詳細は、平成24年1月12日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①簡便な会計処理

一部の項目について簡便な会計処理を適用しておりますが、重要なものではありません。

②四半期財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

（資産除去債務に関する会計基準の適用）

第1四半期会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。これによる損益に与える影響はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成23年11月30日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成23年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,009,692	1,668,023
売掛金	1,830,558	1,999,608
仕掛品	2,340	4,232
その他	374,210	624,698
貸倒引当金	△113,714	△80,875
流動資産合計	4,103,087	4,215,688
固定資産		
有形固定資産	304,770	330,874
無形固定資産		
ソフトウェア	1,266,084	1,064,478
その他	189,269	167,500
無形固定資産合計	1,455,353	1,231,978
投資その他の資産		
その他	494,975	522,638
貸倒引当金	△9,648	△53,339
投資その他の資産合計	485,326	469,299
固定資産合計	2,245,450	2,032,152
繰延資産		
開発費	177,777	—
繰延資産合計	177,777	—
資産合計	6,526,316	6,247,840
負債の部		
流動負債		
買掛金	224,177	161,808
短期借入金	1,000,000	—
1年内返済予定の長期借入金	548,800	548,800
前受収益	—	584,371
その他	824,461	657,138
流動負債合計	2,597,439	1,952,118
固定負債		
長期借入金	521,400	970,500
その他	700	700
固定負債合計	522,100	971,200
負債合計	3,119,539	2,923,318
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,081,200	1,081,200
資本剰余金	1,131,709	1,131,709
利益剰余金	1,565,996	1,483,741
自己株式	△372,128	△372,128
株主資本合計	3,406,776	3,324,522
純資産合計	3,406,776	3,324,522
負債純資産合計	6,526,316	6,247,840

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成22年3月1日 至平成22年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年3月1日 至平成23年11月30日)
売上高	6,825,143	8,362,483
売上原価	963,243	1,459,412
売上総利益	5,861,899	6,903,071
販売費及び一般管理費	6,039,334	6,555,763
営業利益又は営業損失(△)	△177,435	347,307
営業外収益		
受取利息	1,026	201
保険配当金	5,910	—
消費税等調整額	—	4,020
その他	9,750	7,474
営業外収益合計	16,688	11,696
営業外費用		
支払利息	14,866	17,183
シンジケートローン手数料	29,732	23,442
その他	5,030	642
営業外費用合計	49,628	41,269
経常利益又は経常損失(△)	△210,376	317,735
特別損失		
固定資産除却損	31,626	2,318
固定資産売却損	—	474
中途解約損害金	883	—
原状回復費	32,749	—
特別損失合計	65,260	2,793
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△275,636	314,942
法人税、住民税及び事業税	7,665	109,967
法人税等調整額	△85,444	31,368
法人税等合計	△77,778	141,336
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△197,857	173,605

(第3四半期会計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期会計期間 (自平成22年9月1日 至平成22年11月30日)	当第3四半期会計期間 (自平成23年9月1日 至平成23年11月30日)
売上高	2,577,409	3,174,389
売上原価	385,256	590,379
売上総利益	2,192,152	2,584,010
販売費及び一般管理費	2,194,744	2,162,711
営業利益又は営業損失(△)	△2,591	421,299
営業外収益		
受取利息	203	—
保険配当金	5,910	1,878
その他	2,157	2,416
営業外収益合計	8,271	4,294
営業外費用		
支払利息	4,800	5,234
シンジケートローン手数料	8,615	7,257
その他	1,701	316
営業外費用合計	15,117	12,807
経常利益又は経常損失(△)	△9,437	412,786
特別損失		
固定資産除却損	261	—
固定資産売却損	—	30
特別損失合計	261	30
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△9,698	412,756
法人税、住民税及び事業税	2,555	103,537
法人税等調整額	5,534	68,722
法人税等合計	8,089	172,259
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△17,788	240,497

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 平成22年3月1日 至 平成22年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 (△)	△275,636	314,942
減価償却費	279,131	333,839
のれん償却額	54,404	—
繰延資産償却額	—	50,793
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	9,266	△10,850
受取利息及び受取配当金	△1,026	△201
支払利息	14,866	17,183
シンジケートローン手数料	29,732	23,442
固定資産除却損	31,626	2,318
原状回復費	32,749	—
中途解約損害金	883	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△250,699	212,740
仕入債務の増減額 (△は減少)	21,009	62,369
前受収益の増減額 (△は減少)	△174,520	△502,269
その他の資産の増減額 (△は増加)	17,775	43,880
その他の負債の増減額 (△は減少)	86,653	13,965
その他	6,590	△18,514
小計	△117,192	543,639
利息及び配当金の受取額	1,026	201
利息の支払額	△15,915	△16,553
シンジケートローン手数料の支払額	△11,124	△50,363
中途解約損害金の支払額	△883	—
原状回復費の支払額	△3,349	—
法人税等の支払額	△5,184	△30,960
営業活動によるキャッシュ・フロー	△152,624	445,964
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△40,060	△36,542
無形固定資産の取得による支出	△393,638	△504,059
敷金及び保証金の差入による支出	△159	△25,368
敷金及び保証金の回収による収入	74,197	898
投資活動によるキャッシュ・フロー	△359,660	△565,071
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	1,000,000
長期借入れによる収入	100,000	—
長期借入金の返済による支出	△432,400	△449,100
株式の発行による収入	600	—
配当金の支払額	△90,737	△90,124
財務活動によるキャッシュ・フロー	△422,537	460,775
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△934,821	341,668
現金及び現金同等物の期首残高	2,692,686	1,668,023
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,757,865	2,009,692

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、インターネットを利用した求人情報の提供と人材紹介事業を主たる事業としており、提供する求人情報サービスの属性から「バイトルドットコム」、「はたらこねっと」、「ナースではたらこ」、「ジョブエンジン」を報告セグメントとしております。

「バイトルドットコム」はアルバイト求人情報を、「はたらこねっと」は派遣求人情報を、「ジョブエンジン」は正社員求人情報を取扱うサイトをそれぞれ運営しており、「ナースではたらこ」につきましては看護師・準看護師に特化した人材紹介事業を運営しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期累計期間（自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日）

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期損益 計算書計上 額 (注) 3
	バイトル ドットコム	はたらこ ねっと	ナースで はたらこ	ジョブ エンジン	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	6,269,680	835,531	1,012,211	229,976	8,347,399	15,084	8,362,483	—	8,362,483
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	6,269,680	835,531	1,012,211	229,976	8,347,399	15,084	8,362,483	—	8,362,483
セグメント利益 又は損失 (△)	1,077,292	297,484	△243,365	37,514	1,168,925	15,084	1,184,009	△836,701	347,307

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、バイトルドットコムの飲食店顧客向けサービスによるものです。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△836,701千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

第1四半期会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。